

會報

平成 25 年 12 月 5 日 発行

第 61 号

関東地区整形外科勤務医会

発行者：会 長 原 田 繁

発行所：事務局 中川 照彦

〒130-8587 東京都墨田区横網 2-1-11

同愛記念病院整形外科内

関東地区整形外科勤務医会

電話 (03) 3625-6381

FAX (03) 5608-3211

巻頭言

関東地区整形外科勤務医会

会 長 原 田 繁

昨年、佐々木前会長の後任として会長に御推挙いただきました。本会のさらなる発展のために尽力をつくしますので御協力、御支援の程をよろしくお願い申し上げます。

本会は、主として病院勤務医で構成されており、勤務医相互間の情報交換を主な目的としています。設立時（平成元年）は、日本整形外科学会の認定医制度に向けての若い医師の研修の場が、多くは大学以外の臨床研修病院となることに対応するために、臨床研修を受け入れる病院の勤務医が相互に情報を共有することを目標としていました。くしくも 25 年を経た今、2015 年医師国家試験合格者から、新しい専門医制度のもとで専門医を養成、認定しようとする制度改革が着手されております。この改革は、単なる専門医の資格認定にとどまらず、標榜制度と一体化され、各診療科医師数の適性化や地域偏在の是正をも図ろうとしていることから、日本の医療制度の根幹に大きく関わる問題です。勤務医会としましては、整形外科専門医数を手術件数だけや難易な治療が可能な医師数で決定することなく、臨床現場において整形外科的疾患に対して標準的な治療ができる医師数を適性に検討し、各研修病院での研修カリキュラムの策定や研修プログラムの見直しを適切に要望していきたいと考えております。

主要目次

1. 巻頭言	原田 繁	1
2. 新専門医制度について	落合 直之	2
3. 整形領域におけるイリザロフ法	岡崎 裕司	4
4. 事務局から		5
5. お知らせ		6
6. 入会のご案内		7

これまで、会員数も着実に増加して、職域代表として日本整形外科学会代議員、各種委員会に多数の委員を送り、大学、臨床整形外科医会、勤務医会の三者のバランスをとりつつ、勤務医の立場から問題提起をしまいましたが、今後も「勤務医という立場から良識ある意見を学会運営の場に反映させる。」という設立の趣旨に沿い、若手医師に勤務医会の存在意義をアピールしたりすることで組織率をあげることをめざし、教育研修制度を充実させたり、診療報酬点数なかでも手術に関する点数の適正化を図り、さらに整形外科医の社会的地位の向上を目指して積極的な活動をしていきます。

組織のメンバーはそれぞれ固有の目的を持っていますが、勤務医会は常に新たな問題を提起しその解決へのアクションを会員に呼びかけ問題解決能力のある組織として発展していかなければならないと考えています。関東地区整形外科勤務医会がさらに発展するように頑張っています。会員のみなさまの御協力をお願い申し上げます。

新専門医制度について

H25.6.22

キッコーマン総合病院

落合直之

1, 2011年10月13日厚生労働省主催の第一回「専門医の在り方に関する検討会」(高久史磨座長)が開催、2013年4月22日最終答申がでた。

- ・新専門医制度は、医師の質の向上と偏在是正を目的
- ・専門医とは、患者から信頼される標準的医療を提供する医師
- ・医師の autonomy で運用する 第三者機関たる新専門医制評価認定機構(仮) を構築
- ・総合診療科を基本診療領域に追加

他の専門医は「深さ」、本専門医は「扱う問題の広さと多様性」を特徴

- ・基本領域の専門医の重複は新制度では、制度上重複はまず不可能と思われるが、努力次第で重複しても良い

との方針がしめされた。

2, 新専認構は2013年度中に設立される予定

- ・運転資金の出所；専門医認定料・専門医養成施設認定料の収入、ほか未定
- ・専門医認定と研修プログラム・施設評価認定の2つのboardを設置する
構成員は、各学会で専門医制度に知悉した方々となる予定

3, 新制度導入の今後の日程

- ・2015年新卒対象に開始、実質的には2017年の専攻医が対象
- ・専攻医の修練期間は3-4年で、2020年または2021年に subspecialty の新制度が始まる

- ・新制度導入時の旧制度下の認定者の扱い

2017年あるいは2020年に新制度に一本化される予定。詳細は未定。

制限無く行うかは、新専認構次第

4, 整形外科学会で準備すべき事

専門医制度整備指針（第4版、2013.5）と専門医制度研修プログラム整備指針（案）（2013.5.21）による

- ・研修の実質化、その担保
- ・各制度（学会）が指針に則ってプログラム整備要件を策定
- ・大学・基幹研修施設が中核となり地域性を考慮して研修施設群（プログラム）を構築する
 - 基幹・関連施設の長は、研修の取りまとめ役となる
 - 専門医研修管理委員会（基幹）・専門医研修委員会（関連）を運営
 - 専攻医の評価
 - 指導医の指導実績・研修記録
 - 専攻医が指導医を評価するフィードバック機構を準備する
 - 専攻医を実質的に毎日直接指導する専門医（指導医）が必要
 - 指導医は1施設1名でなく新制度下では、複数名の指導医が必要
 - そこで日整会は指導者講習会の開催数を増加する
- ・決められたカリキュラムの下、到達目標を計画的に達成する研修・指導体制
 - scientific surgeon 育成のため必ず研修期間中にはある時期大学の研修を義務づける、また地域診療にも貢献して戴く
- ・専門医の研修の均霑化のために
 - 疾病構造の変化した現代にあうカリキュラムに改変する
 - 研修期間の単位制を導入する
 - 外傷、脊椎、下肢、上肢・手：各6単位（計24単位）
 - リウマチ、スポーツ、リハビリ（術後療法を含む）、地域医療：各3単位（計12単位）
 - 小児、腫瘍：各2単位（計4単位）
 - 残り8単位を流動単位とする

5, 専攻医・専門医の研修記録の電子化

- ・外科関連学会はNCD(National Clinical Database)で、手術の全例登録
- ・専攻医、専門医への負荷が大と考え日整会では当面別の方式を考慮する

整形領域におけるイリザロフ法

～ 今さら聞けないイリザロフ法ってなに？～

関東労災病院 整形外科

岡崎 裕司

整形外科治療分野における偉大なるブレークスルー、イリザロフ法は1950年代に西シベリアの小都市クルガンで物資に乏しい中での骨折治療に対して自転車のスポークと馬蹄を基につられたリング型創外固定器から生まれてきた。

その後、単純骨折の治療を皮切りに現在では重度開放骨折、粉碎骨折、関節近傍骨折、関節リウマチ、シャルコー関節など骨粗鬆症性骨折等、いわゆる難治骨折治療には今や不可欠な固定方法となった。また、骨の安定した3次的自由度のある移動も可能となり軟骨無形成症をはじめとした小人症である骨系統疾患の単純脚延長から四肢脊椎の変形矯正、骨切り術、関節固定術、腫瘍切除後の四肢再建、高度軟部組織拘縮の解除、牽引関節形成術、皮膚延長、血流再建術、感染性偽関節における骨移動術など多岐にわたる応用が整形外科分野で行われることとなった。

組織の連続性を保ちながら安定して一定方向に張力を加え、維持していくことが可能となった骨軟部組織の欠損治療は、張力の働く方向へ生体組織を人為的に新生・修復ことができるイリザロフ原理 low of tension effect の発見で可能となり、骨のみならず軟部組織も含めたいわば複合組織形成・再生術である。そして、この原理はイリザロフ創外固定器でなくとも他の創外固定器、髄内釘でも一定方向に張力が加えることが可能な器械で応用できる点でも画期的であった。牽引 distraction のもたらす組織形成術の本質は組織の虚血状態に対する血管新生を含めた血流改善であり、血行の修復・再生である。血流改善の足場に張力ストレスが働き新たな生体細胞の賦活化が組織レベルで生じるのである。新たな展開としては、ロシアでは整形外科分野のみならず脳血管障害の治療にも応用され、頭蓋骨に欠損部を作成し骨移動術を行うことで、これまで修復不能であった脳神経治療への新たな取り組みもなされている程である。

最後に、創外固定の歴史は単なる骨折の固定器として生まれ、今ではイリザロフ法に代表されるその応用範囲は、体外から体内の組織をコントロールできる整形外科領域の技術的躍進に欠かすことのできないツールであることに間違いはない。しかしながら、その使用法は術後の煩雑な手技や管理、長い治療期間など克服すべき問題点も随時起こってくる。これらを手早く取り扱うためにも綿密な計画と、正確な実行、そして詳細な観察と適切な処置が必要不可欠であることを理解して行う手技であることが最も重要である。

(参考)

1. 【今日の整形外科治療指針 第6版】岡崎裕司(関東労災病院整形外科部長)
 1. 外傷一般 遷延治癒骨折、偽関節 Page74-75(2010. 06. 15)
 2. 外傷一般 骨折の創外固定 Page78-80(2010. 06. 15) 医学書院
2. 【新・図解救急・応急処置ガイド 救急・応急時に必ず役立つ基本手技と処置のすべて】骨折処置法：岡崎裕司(東京都立府中病院 整形外科部長) Medical Practice 25 巻臨増 Page386-392(2008. 05) 文光堂
3. 【今日の治療指針 Vol. 48 2006年版】18. 整形外科疾患 骨髄炎・化膿性関節炎(結核を含む)：岡崎裕司(東京都立府中病院 整形外科部長) Page783-784(2006. 01. 01) 医学書院
4. 【MRSAによる骨髄炎の治療と管理】MRSAに対する抗菌薬の効果的投与方法：岡崎裕司(国立病院機構東京病院 整形外科医長) Page949-954 整形・災害外科 Vol. 47 No. 8 (2004. 07. 01) 金原出版
5. 【整形外科クルズス 第4版】F骨軟部組織欠損の治療 V18 イリザロフ法 岡崎裕司(東京大学整形外科 講師) Page850-854 (2003. 06. 01) 南江堂
6. 【解説】組織形成術としての脚延長法：岡崎裕司(東京大学整形外科 講師) リウマチ科 Vol. 28 No. 4 Page401-406(2002. 10. 28) 科学評論社
7. 【最近の創外固定の展開】V実験モデルとしての骨・脚延長 軟部組織延長 伸展モデルとしての可能性：岡崎裕司(東京大学整形外科 講師) 関節外科 基礎と臨床 増刊号 Page106-109(2002. 04. 01) メディカルビュー社

事務局から

このたび、関東地区勤務医会で会長・事務局が交代になりました。会長は長らく当会の事務局を務めていただいた原田先生(筑波学園病院)に、事務局は総務を中川先生(同愛記念病院)に、広報を江畑(横須賀共済病院)にと分担していくことになりました。この機会に、会報も3年ぶりに発行することとなり、6月にご講演いただいたお二人の先生の講演要旨を掲載させていただきます。今後は事

業活動報告なども含めて定期的に発行していきたいと考えております。ホームページの更新も含め、内容の充実を図っていきたく思っておりますので、会員の皆様のご意見をお寄せ下さい。(文責 江畑)

お知らせ

第 57 回 日整会認定教育研修会の御案内

関東地区整形外科勤務医会では、下記のごとく幹事会及び教育研修会を開催いたします。なお、研修会の出席予約は要りません。専門医以外の先生方もお誘いの上、ご参加下さい。会終了後、懇親会も予定しております。

記

日 時：平成 25 年 12 月 14 日（土） 15:00～18:00
会 場：大日本住友製薬株式会社東京本社 10 階大ホール
〒104-8356 東京都中央区京橋 1-13-1
TEL 090-7097-6617（当日連絡先）

幹 事 会：15:00～15:45（東京本社 10 階食堂）

教育研修会：16:00～18:00

(1) アライメント異常をともなう後足部の障害（16:00～17:00）

講師：東京警察病院 整形外科 副部長 原口直樹 先生

(2) 脊椎損傷患者さんを治したい～iPS 細胞を用いた再生医療に向けて～

（17:00～18:00）

講師：慶應義塾大学医学部 整形外科学 准教授 中村雅也 先生

受 講 料：1 題 ¥1,000－（単位取得者のみ）

懇 親 会：ひきつづき 18:15 より食堂にて行います

共 催：大日本住友製薬株式会社

入 会 申 込 書

平成 年 月 日

(フリガナ)
御 氏 名 _____

生 年 月 日 (大正・昭和) 年 月 日

現 住 所 〒 _____

TEL _____

勤務先名称 _____

勤務先住所 〒 _____

TEL _____

FAX _____

e-メール _____

役 職 名 _____

出 身 大 学 _____

卒 業 年 度 _____

出 身 教 室 _____

入会申込み送り先

〒130-8587 東京都墨田区横網 2-1-11
同愛記念病院 整形外科
関東地区整形外科勤務医会
事務局代表 中川 照彦
TEL 03-3625-6381
FAX 03-5608-3211